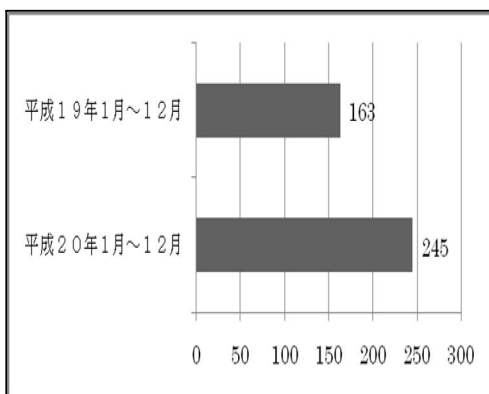


青葉区民会議は、青葉区と同じ歳で、今年15年目をむかえます。2年1期制ですから現在第8期となります。第8期は、公募や自治会などからの推薦による81名のメンバーが集まりました。実際の活動は、安全・安心・まちづくり部会、自然・環境部会、健康・福祉・教育を考える部会の3部会でおこなっております。では3つの部会の第8期(平成21年4月～平成23年3月)の活動課題を紹介いたします。

安全・安心・まちづくり部会 第8期活動 課題

(1)防犯について 青葉区は空き巣犯に狙われています

当部会では今まで防犯の問題は取り上げて来ませんでした。それは青葉区における犯罪の発生件数が平成16年をピークとして、年々減少の一途を辿ってきたからです。ところが、平成20年度からこの傾向に変化が見られ、件数は反転増加することとなりました。青葉が狙われるのはなぜ? 区内の発生状況を分析した上で、発生件数に歯止めをかけさらに減少させるにはどうしたらよいかを検討します。



区内の空き巣発生件数

年	1～3	4～6	7～9	10～12	合計
H19	40	45	29	49	163
H20	49	68	42	86	245

(青葉警察署の発表を元に作成。
ただし平成20年12月の数字は暫定値)



地域ごとに青パトなどの防犯対策が進んではいますが・・・

(2)交通について 青葉区の交通施策「あおばエコムーブ」を考える

青葉区役所の「エコムーブ」活動に着目し、「公共交通機関への転換の推進」を目的に、以下の4つのテーマについて検討を始めました。

①バス案内板の設置、バス乗継社会実験などを内容とした、「徒歩、自転車への転換」について②歩行者、自転車通行環境向上に向けた取り組み③歩行者案内、誘導看板の設置④まちのバリアフリー化の推進。

「自転車通行問題」については、高齢化が一挙に進み坂道の多い青葉区の中かでの事故防止策を、検討し続けています。検討の一端をご紹介しますと、歩道上を軽車両の自転車と歩行者がどのようにしたら共生できるのか、現地を歩きながら点字歩道への対応はどうしたら良いのか考えるなどです。



(3)防災について 減災はどうすれば実現するのか?

区民会議ニュース29号-31号まで「青葉区民の減災ヒント」をシリーズ掲載しました。今後は、さらに青葉区の特性に十分焦点を当てた対策が必要です。急激な共稼ぎ化、高齢化、昼間人口の減少、塾通いの増加、ペットが多いなどの特性を考慮した対策です。現在、どのような備え・心がけが必要か検討を進めており、「青葉区民の減災ヒント(続編)」としてまとめる予定です。

また、私たちの部会には、自治会役員ほか地域各委員、区内の団体・ボランティアに参加している方も多いことから、住民目線でいろいろな事を見て体験しています。そうした部会員からみると地区内の防災の在り方はこれで良いのかと大いに疑問を感じます。「私たちの身は私たちが守る」よく言われますが、「自助・共助」をどのように行ったらよいか、協議を進めてきました。現在は、地域医療拠点・地域防災拠点の問題点について検討し勉強を行っている最中です。地域を安全で安心して長く住めるふるさとにしたいという部会委員の気持ちを集約して、青葉区に対しいろいろな意見と提言を行ってまいります。

(4)まちづくりについて まちづくりは広い範囲の検討が必要

安全・安心のまちづくりについて考えると、福祉は、教育は、環境はといった当部会の範囲外の問題点の検討が必要となってきます。それには、区民会議の他の2部会はもとより、広く区民の皆さまの参加による検討が必要です。そのような機会や組織を立ち上げるべく、行動をおこしてまいります。

自然・環境部会 第8期活動 課題

(1) 緑の保全について

「農地の実態」「市街化調整区域の実態」「みどり税の使われ方」「寺家ふるさと村」「恩田市民の森(仮称)」などの調査・勉強をとおして緑地保全の実態を知り、また区民の思いを集約することで、緑被率(*1)の維持に向けた提言を行います。



寺家ふるさと村



青葉インター付近の鶴見川

(2) 川の保全について

「鶴見川流域水マスタープラン(*2)」を切り口に、流域の実態を勉強します。また流域保全に関わる諸団体の活動の状況も調査します。川そして流域への区民の思いを大切に、川の美化・保全にむけた提言を行います。

(3) 「区民と緑」について(水と緑の基本計画青葉区民版)

青葉区民意識調査によると、多くの区民は緑豊かな田園風景に魅力を感じています。区民の暮らしにとっての緑という観点から、将来の緑地と川の在り方を探り、そこに向けた計画「区民と緑」を作成し、提言していきます。

*1：緑被率とは、樹林地や耕作地、街路樹のほか個人の住宅の庭木や芝生、花壇など、緑に被われた土地の割合で、実際には航空写真を利用して調べます。

*2：鶴見川流域水マスタープランとは、流域の課題に総合的に対応するため、平成16年に国及び東京都・神奈川県・横浜市など流域に関わる国・地方自治体が定めた基本計画。



健康・福祉・教育を考える部会 第8期活動 課題

(1) 高齢者福祉の充実

福祉関連行政の現状や特別養護老人ホーム等の実態を把握するとともに、高齢者自身の生の声や要望を聞き、それを反映した提言を行ないます。

(2) 青葉区地域福祉保健計画について

現在策定中の青葉区地域福祉保健計画(H22~27年度)の内容を検証し、地域の実情に合った提言をおこなっていきます。

(3) 特別支援学校(養護学校)の新設要望

身体障害者・知的障害者の実態を把握し(特に18歳未満)、区内に特別支援学校の新設を要望していきます。

(4) ボランティア組織の連携

健康・福祉関連のボランティア組織同士の連携、新たな健康・福祉コミュニティーのありかた提案をしていきます。

(5) 「食育」の推進

「知育、体育、徳育」に加えられるようになった「食育」。農林水産省は、食について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全で安心な食生活を実現することができることを目的に、「食育」を推進しています。また食品の安全性にも注目していきます。

(6) 地域コーディネーターのネットワークづくり

現代の学校教育では、教職員・保護者・地域住民の三者による連携や協力が、子どもの教育や成長に欠かせません。また、それらを通じてできた人と人とのつながりや活動そのものがその地域を活性化し、まちづくりにつながっています。横浜市では、学校および地域ニーズを把握し対応できる組織やコーディネーターの設置が進められています。当部会では、学校を核としたまちづくりの取り組みをさらに活性化するためには、これらが情報交換ができるネットワークづくりが有効と考え、これを提言してまいります。



細谷青葉区長に聞く

就任2年半、区長に横浜市や青葉区への思いや課題、また区民会議に望むことなどを、語っていただきました。



都市計画マスタープランの見直し

マスタープランは長期的な理念と方向性を示すものだから、短期間に変更するところはない前提で作られている。しかし時代背景や環境、市民意識（価値観）など前提条件の変化も当然あることで、そうした意味で今回の区民会議によるプラン見直しの方向づけは、有意義と思います。

少子高齢化が青葉区にとって最大の危惧・課題

これからは少子高齢化から来る課題対応が一番重要と思います。たとえば都市型限界集落問題。地区の現役世代が減ることで、バス路線や運行回数が減少したり、交通手段が確保できなくなることによる生活利便性の低下。ますます若い世代は、交通事情の良い地区へ転出する恐れがある。残された高齢者世代は転出できずに取り残される。地方の過疎地やかつての大規模団地などで現実には起きている現象です。そうならない取組が必要です。

次は高齢者対策問題。介護保険による公的な支援は制度としては整ってきました。しかしその周辺にある介護予防とかその手前の健康づくりなどは、行政だけでなく市民どうしの横のつながりの対応が必要ですが、まだまだ十分とは言えない。青葉区は健康づくりの意識は高いが、個人レベルの高さであり、市民の横のつながりがさらに出てくるのが健康づくりのために重要と思う。また市民ボランティアとしても個々の意識は高いが、活動の輪を広げることで、一層活発な活動ができると思う。防犯活動なども同様に、広がりができて始めて効果が現れると思います。そして子育て世代対策。現に保育所が不足している。子育てがしやすい街には新たな若い層が入ってくる、そうした新陳代謝・緩やかな人口増加こそ、また新たな仕組みを生み出す原動力となるはずである。さらに青葉区にはさまざまな層の人たちも入ってくる。そうした人たちに対するきめ細かい対応も必要となる。青葉区を住みたいまち、住み続けたいまちにしたい。

自然環境そして農地問題

青葉区の魅力「緑環境」の保全も重要です。いろいろな問題をはらみながらもスタートしたみどり税、しかしこのみどり税が無ければ実現できなかったことも、これから見えてくると思う。成果に期待したい。また農業振興の問題。たとえば直売所志向型と体験ファーム(市民農園)志向型の2つの農業振興の可能性もあるのではないかと。市民の食の安全と健康志向ニーズにも合致する。区民の方と農家の方の相互理解と交流を進めていきたい。

区民会議に望むこと

政策提言のための区民会議メンバーのアイデアを望む。また広く区民の声を反映させることは勿論、さらに今の制度・仕組みでは反映されないにくい区民の声をひろっていくことができれば、素晴らしいと思います。そこには、市・区では気がつかないことがあり、まさしく区民の智慧です。(過去の例として、AEDの貸し出し制度などに結びついた声があった)。また、青葉区では色々な分野で最先端の優れた人材が沢山いるので、この人材の組織化や、つながりができれば、大きな成果が期待できるのでは、これも区民会議に望んでみたいことです。

人のつながりということ、そして私のこと

市民活動については、活動の担い手を若い世代につなげていくことが必要で、たとえば子どもつながりやPTA対応によって輪を広げていくことが必要でしょう。最後に私のことで恐縮ですが、こども青少年局を立上げた時の苦労と喜びは忘れられないが、今青葉区長を希望して、こうして区民の皆さまと一緒にまちづくりができることは、やりがいがあり、何よりの喜びです。

